

平成 29 年 3 月 14 日

各 位

会社名 昭和化学工業株式会社
代表者名 代表取締役社長 石橋 健藏
(コード番号 4990 東証第 2 部)
問い合わせ先 総務企画部長 保田 勝之
(TEL. 03-3494-0491)

バイオマスエネルギー導入に係る技術開発プロジェクトの始動

昭和化学工業株式会社（以下、当社）は、プロジェクト実施地域の特性及び当社の事業特徴を活かした、木質バイオマス資源を原料とする熱エネルギーの工業利用に関する技術開発及び設備導入プロジェクトに着手しました。当プロジェクトは、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（略称：NEDO）の実証事業として実施します。

1. プロジェクトの目的

下記事項を目的にプロジェクトを実施します。

- ①木質バイオマス資源の安全で効率的な熱利用方法および設備運用方法を確立する事。
- ②地域の未活用バイオマス資源を活用する事で、地域産業の活性化を図る事。
- ③当社の燃料購入代の一部を地域還元する事で、地域の主力分野との協業機会拡大を図る事。
- ④当社の燃料費の平準化を図る事。
- ⑤当社が排出する二酸化炭素量の削減を図る事。

2. プロジェクトを行う背景

当社は、鉱物である珪藻土・パーライトを原料とした濾過助剤、建材及び充填材の製造販売が基幹事業であり、国内 6 工場、海外は合弁 1 工場の体制で製品を供給しています。当プロジェクトは、当社の創業の地であり、世界的にも良質な珪藻土鉱区を保有する岡山工場にて実施します。製品原料である珪藻土原土は、他の鉱区から産する原土と比べても水分を多く含み、水分を 0% まで乾燥させる製造工程にて多大な熱エネルギーを必要とします。そのエネルギー燃料は、輸入 LNG を使用しています。

岡山工場は岡山県真庭市蒜山地区に位置し、真庭市は南北 50km の広さを持つ自治体であり、バイオマス産業都市の実現を目指し「真庭バイオマス産業都市構想」により、木質バイオマス資源の利活用を促進させる仕組みを構築しています。その中心は、古くから木材加工業が盛んな真庭市南部の久世地区であり、真庭バイオマス発電所の稼働がその起爆剤となり、地域バイオマス資源の高効率の利用体制が確立され、地域産業全体が活性化されています。高効率の利用体制を支えるのは、情報カードを活用することで、簡便的にバイオマス証明書の発行を行うことができる木質資源安定供給システム「真庭システム」です。

一方、岡山工場が位置する蒜山地区は、久世地区から約 30km 北上した岡山県及び真庭市の最北エリアです。主要産業は酪農及び観光であり、未活用のバイオマス資源が豊富に存在しているものの、消費の場が少なく、効率的なバイオマスの活用が進んでいないのが現状です。

3. プロジェクトの実施概要

当社内にプロジェクト組織を常設し、下記事項に取り組みます。

①原料調達

地域の独自システム「真庭システム」と連携した木質バイオマス原料の安定調達体制を構築します。

②エネルギー変換

設備投資を最小限に抑えるため、既存設備を最大限利用したバイオマス熱風炉及び関連設備一式を導入します。更には、食品添加物である珪藻土製品品質への影響を排除する設備を導入します。

③エネルギー利用

エネルギー原料の品質及び価格の変化に柔軟に対応するため、既存 LNG 熱風炉と新設のバイオマス熱風炉を並列設置する事で、燃料の二元化の体制を構築します。

プロジェクト全体の概要イメージは次の通りです。



4. プロジェクト期間

平成 34 年度 (2022 年度) まで

以上